伝承　～和紙産地の興隆を促す再生計画～

A20AB132 山上里奈

研究構成

Ⅰ.研究の概要

Ⅰ-1.背景　Ⅰ-2.目的　Ⅰ-3.位置づけ

▼

Ⅱ.敷地調査

Ⅱ-1. 敷地分析　Ⅱ-2.実地調査

6月3日土曜日 第1回実地調査　蕨生地区の概要把握・古民家分布マップの作製
7月9日日曜日 第2回実地調査　うだつの上がる街並みイベント「紙博2023」参加
11月2日木曜日 第3回実地調査　古民家図面作成

▼

Ⅲ.プログラム立案

Ⅲ-1.事例・文献調査　Ⅲ-2.再生計画立案

▼

Ⅳ.設計

Ⅳ-1建物機能の決定　Ⅳ-２.コンセプト　Ⅳ-３.ダイアグラム

背景１. 地域を支える「産業」

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2060 年の総人口は約 8700 万人まで減少し、高齢化率は将来的に 41% 程度まで上昇する *1)。この傾向は地方部でより顕著であり、都市部への過度の人口移動により、地方では集落の維持・存続すら危ぶまれる状況にある。こうした状況を打破するために「地方創生」に関する議論が展開されている。そして、地方創生の手段として文化産業が注目されている。これらの産業は、人々を呼び込むことで新たな消費需要や交流人口を生み出し、人口減少で縮小した地方に再び価値をもたらすなど、地方が抱える問題解決の糸口となっている。

*1）国立社会保障・人口問題研究所　https://www.ipss.go.jp/ 2023 年 10 月アクセス

背景２. 和紙産業の危機

インテリア製品の材量としても用いられ、日本の生活文化において和紙は欠かせないものであったが、明治時代以降安価な洋紙が普及し和紙需要が低下し、それと伴い和紙産業に従事する人々も年々減少している。財団法人日本特用林産振興会によると、1976 年 3,748 軒あった手漉和紙生産戸数は、2007 年には 301 軒と約 1 割まで減少した。また、原料である「楮」の収穫量は 1975 年から 2004 年比では 8 %, 栽培面積では 11%にまで縮小している。数少ない担い手も高齢化に伴い減少していくことが予想される一方で、生産性が低く不安定な和紙産業は次世代の継承者育成に難航している。

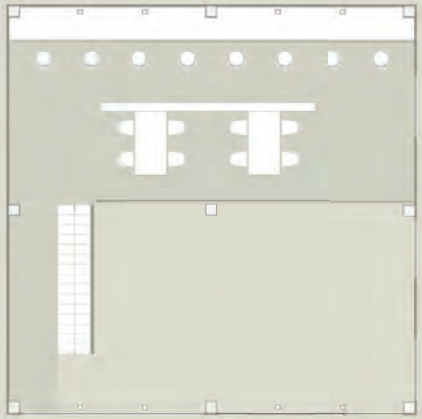
*2）日本特用林産振興会　和紙原料の生産・流通状況より和紙（わし）－文化財を維持する特用林産物３｜文化財を維持する特用林産物｜日本特用林産振興会 (nittokusin.jp)　2023 年 10 月アクセス

位置付け

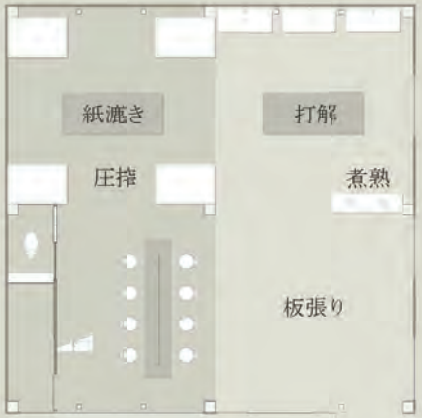
和紙産業を観光資源とした地方創生計画について既往研究や建築事例はあるが、移住・定住に焦点を当て建築計画を用いて展開された地方創生計画はない。

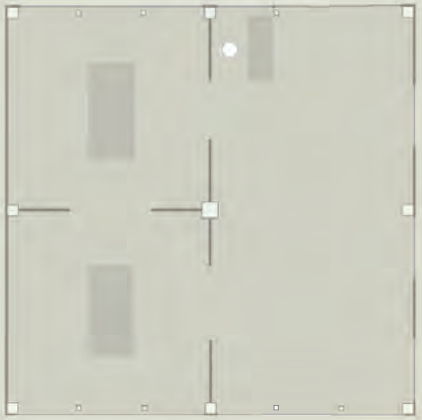
目的

本研究では、紙漉きの技術継承を核とし、和紙産業の興隆によって空き家問題の解決、及び若年人口の増加を目指した再生モデルを提案する。



2 階平面図 1：50





1 階平面図 1：50

01 蕨生の環境

身近に川や森など豊かな自然

医療福祉・子育て支援の充実など住みよい田舎

地域に根付く本美濃和紙という伝統文化

02 蕨生に創る環境

多様な文化交流のネットワーク

職人と多様な文化の交流ネットワーク

住民を中心として構築される創造農村

03 蕨生で受け継ぐ伝統的風景

原料”コウゾ”を天日干しする風景

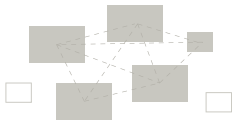
コウゾを洗い塵取りをする風景

漉いた和紙を天日干しする風景

ダイアグラム

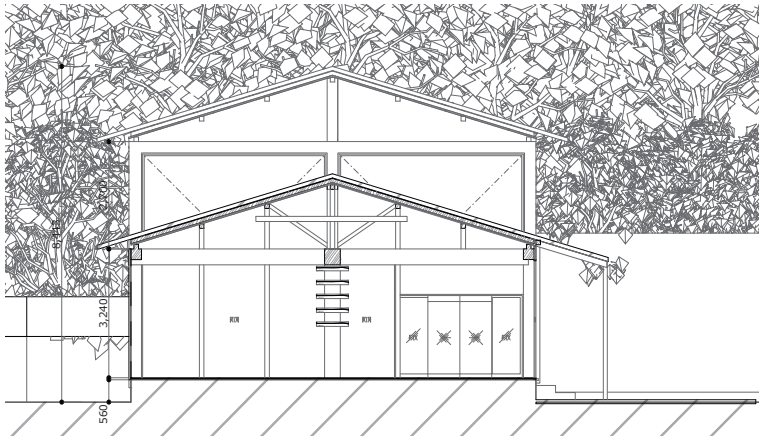
空き家と古民家の点在する村

アーティストに提供
空き家ストックの活用



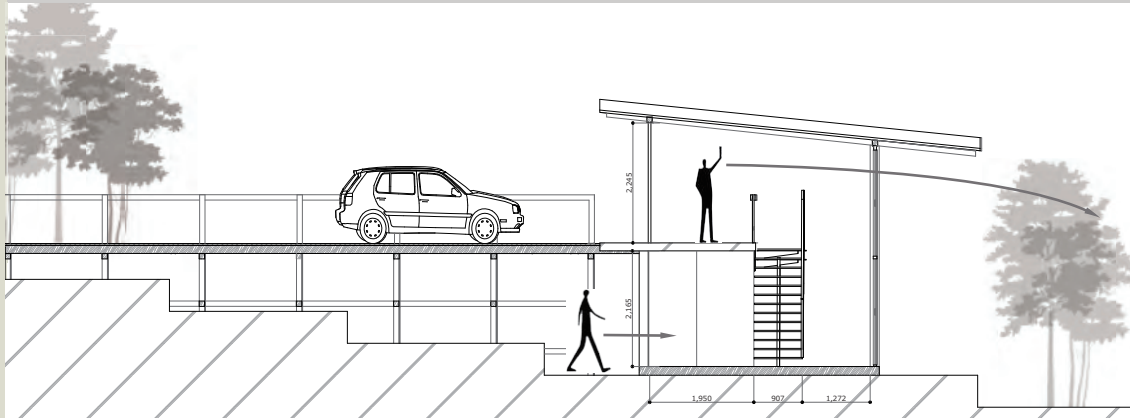
村に広がる創造のコミュニティ

職業訓練校断面 1：50



蕨生荷点在する古民家と同じ間取り構成であることによって、新設建物であっても蕨生にの村に溶け込む。
作業場と展示場を別棟荷分けることで、展示場をニーズによって地域のハレの場や寄合スペースとして地域開放できる場として活用する。

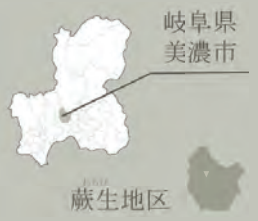
モビリティ拠点



対象敷地

計画地概要

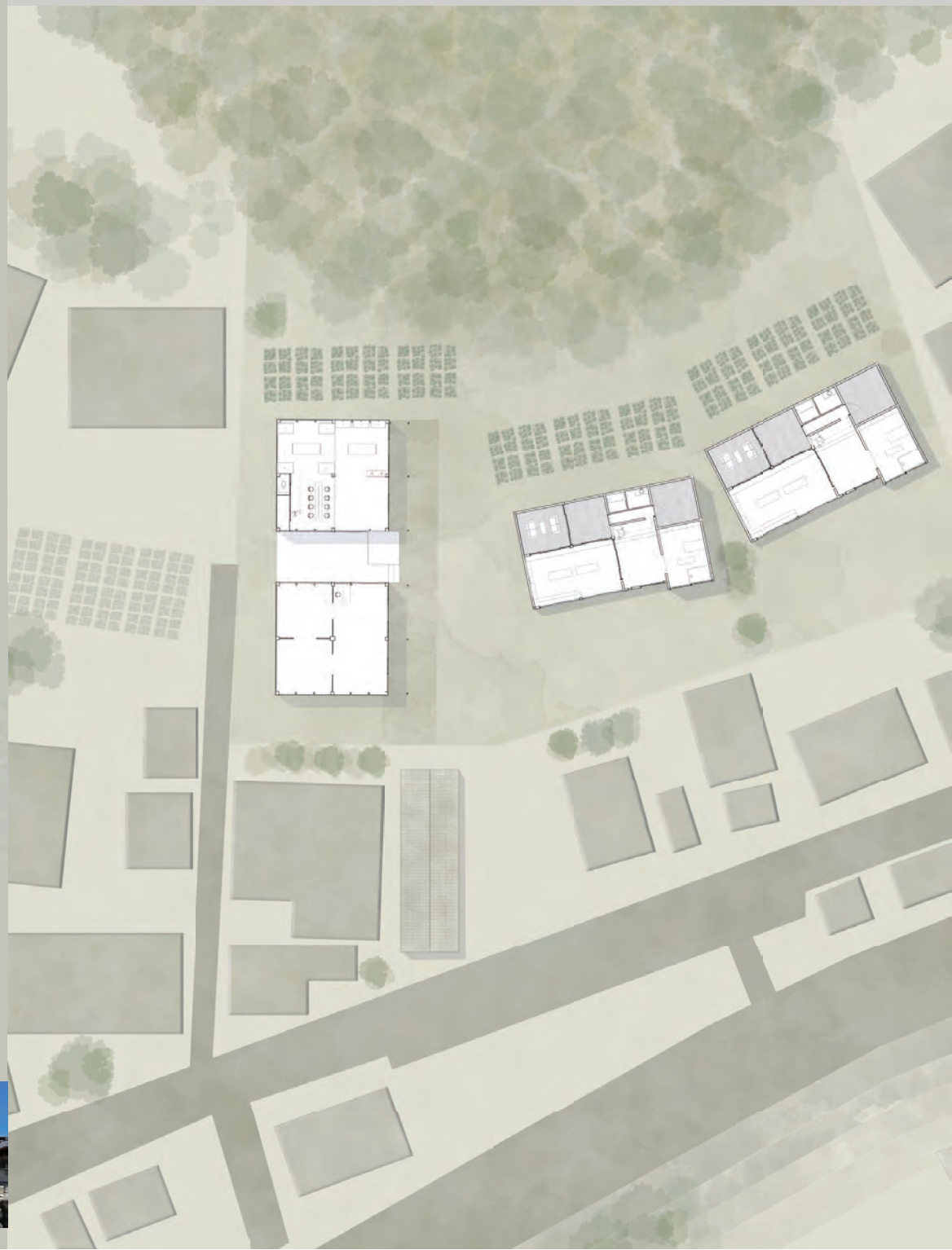
本提案では、岐阜県美濃市の中心に位置する蕨生地区を対象とする。蕨生では板取川の豊かな水資源を利用し、1300 年前から本美濃和紙生産の地として栄えてきた。現在は 6 件の工房が手漉き和紙を生産しているが、他の生産地同様に高齢化と若年人口の減少により、後継者不足や空き家・空き地の増加が課題となっている。職人によると、「和紙産業は個人事業であるため、金銭面から後継者の受け入れが難しいのが現状だ。」といった公的機関を求める声があった。



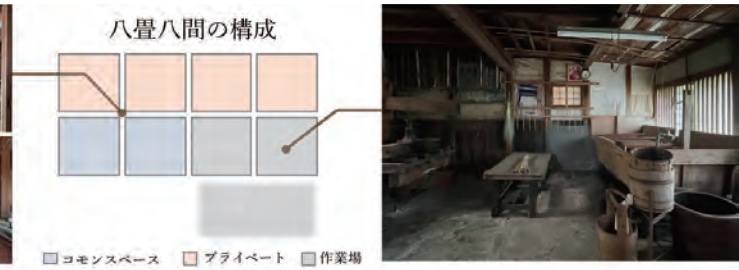
計画エリア

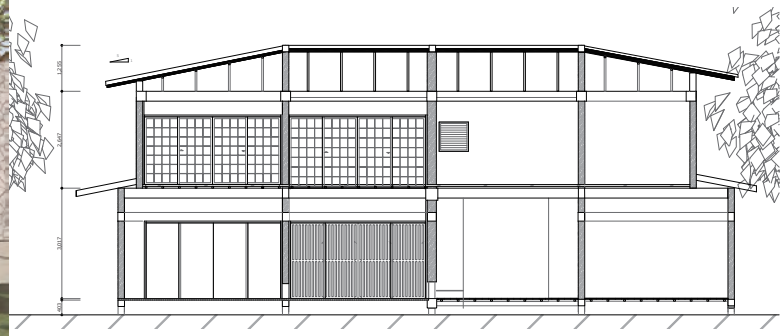
本提案では、勘兵衛川屋周辺の空き地を計画地とする。勘兵衛川屋は市内に現存する川屋の中で最大で，多い時には 30 人が並んで作業したと言われ，市指定有形民俗文化財に指定されている。川屋は紙漉き工程のうち，楮についた不純物を取り去る作業で使用された。紙漉きが盛んに行われていた時代は，日常生活の他に，ちり取りの共同作業場として川屋が利用されていた。しかし，現在は共同作業も行われなくなり，利用される機会が少なくなっている。和紙生産は，地域の人々と収入を共有し，地域で産業を支え，作業を介することでコミュニティ形成にも役立っていた。

配置図 1：200



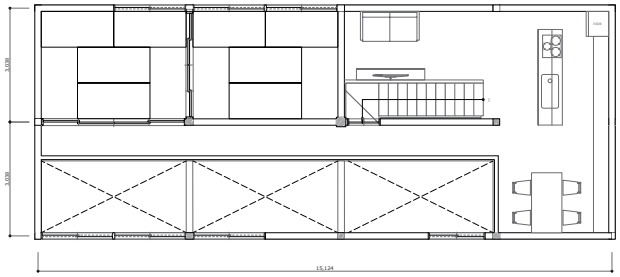
職業訓練校内部パース：後継者不足の原因となっている技術教育機関の不足を解決する。作業場内部は、南面の開口部から光を取り入れることで日当たりの良い室内となる。



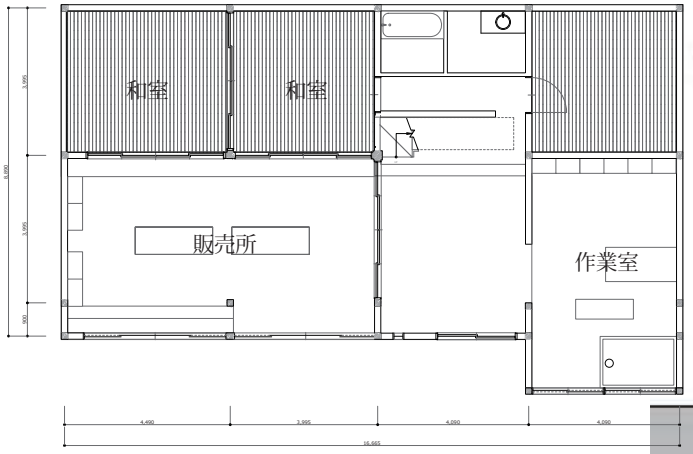


東西断面図 1：50

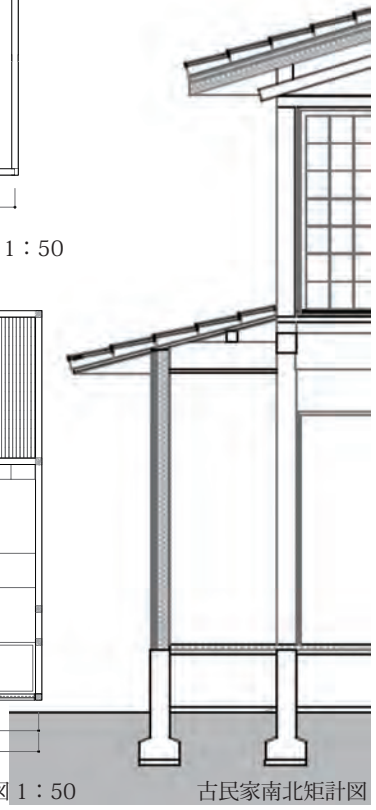
展示販売のエリアと工房を土間で区切り、プライベート空間と来場者のエリアを区分する。
古民家の特徴である襖による柔らかな仕切りを活かし、生活スタイル合わせた間取りに変化する。また、他分野のクリエーター—と生活空間・アトリエを共通させることで、コミュニティの形成に繋がる。



2 階平面図 1：50



1 階平面図 1：50

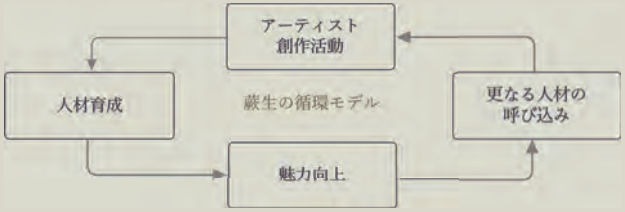


古民家南北矩計図

コンセプト

【アーティストと地域で創造・発展する和紙の里】

アーティスト・イン・レジデンスを中核に創造活動の拠点を和紙の里に設けることによって、空き家・空き地に公共性をもたらし関係人口を増加させる。また同時に、地域内外の学生やリカレント教育希望者に職業訓練を行いながら、地域再生・事業継承の人材育成を行う。多様な分野のアーティストと和紙職人・地域住民の関わりをもつことは地域の魅力を深める。そして魅力を発信することで更なる人材を呼び込み、持続的な技術継承を目指す。（図３）



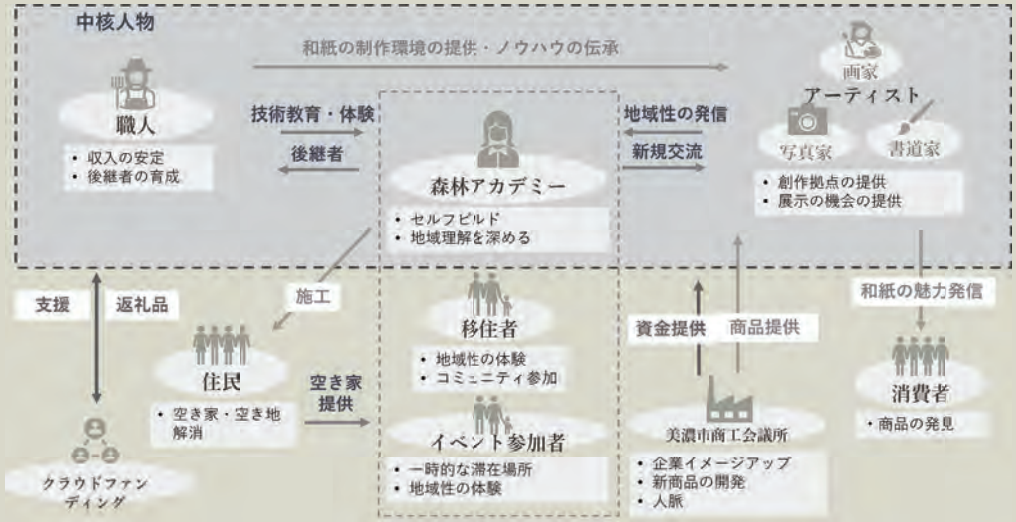
プログラム

１．アーティストの創造活動の拠点を古民家によって提供

かつて紙漉きを家業とし工房が設けられた古民家を、アーティストの創作の場として提供する。作品を展示・販売する空間をアトリエと同じ場に設けることで、サプライチェーンが可視化され、生産地の風土や歴史、作家のエピソードなど作品の背景にある文脈や知識を訪れる人に提供することができる。これらの取り組みは、訪れた人々に手漉き和紙の価値を再認識させ、技術の学習・継承意欲に繋がる。また、提供する古民家を地元の林業学校「森林アカデミー」在籍の生徒がリノベーションすることによって、持続的な地域との関わりを目指す。

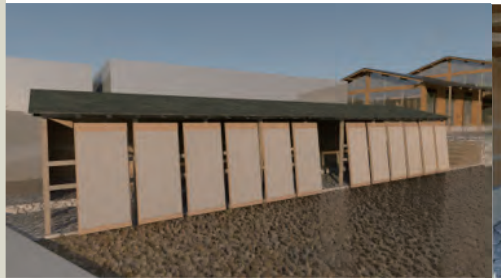
２.職業訓練の場を新設

現地調査述べた勘兵衛川屋のある空き地に、職業訓練校の共同作業場や共同農園、宿所を設ける。この職業訓練校場は、かつて共同作業をしていた風景を再び起こし、和紙の里の町並みの継承を促す。また、後継者不足の原因となっている技術教育機関の不足を解決する。



古民家内部パース：作品を展示・販売する空間をアトリエと同じ場に設けることで、サプライチェーンが可視化され、生産地の風土や歴史、作家のエピソードなど作品の背景にある文脈や知識を訪れる人に提供することができる。これらの取り組みは、訪れた人々に手漉き和紙の価値を再認識させ、技術の学習・継承意欲に繋がる。

モビリティ拠点内部パース：普段ドライブで訪れて通過地点になってしまっている蕨生に立ち止まる場所を計画。
交通量の多い主要地方道美濃洞戸線沿いに駐車場を設けることで細い道が多い蕨生地区内のまち歩きを促す。



古民家・空き家分布図

古民家マップ